

前野由和議員

地域資源を活用した農
林業振興で、安定した雇
用を創出するとしてい
る。方向は、理解し評価
するが、PPP協定批准
が日程が上がっている状
況である。政府や県の影
響試算は、マイナスを過
小に対策を過大に評価し
たもので、批准のために
したもので不安や疑問に
答えていないとの批判が
強い。町の計画に対する
影響は極めて大きいもの
があるが、試算をしてい
るのか。

前野由和議員

国は、交付税算定に最
も効率よく支出を抑え
た、上位30%の自治体を
目安にする方式を導入し
た。成果のみを評価する
ことよって地方をコン
トロールすることは条件
不利益な地方の切り捨て
につながる。問題や課題
を抱えながら生き残って
いくことは容易なこと
ではない。住民との合意形
成に最大限努力せよ。

岩崎憲郎町長

地域の実情を訴えてい
くことにより、国の施策
の中で反映してもらおう
努力をし、議会からの指
摘や提言、各方面からの
意見を集約し、一定の必
要



おおとよ創生プロジェクト

要な見直しも行いながら
計画の推進をしていく。

住民の積極的なかかわり
をお願いしたい。

問 国勢調査の結果をどのように受け止めたか

答 積極人口を維持し続ける町を目指す

人口問題研究所によれ
ば、2040年の大豊町
の人口を現在の40%、1
600人余りと予測して
いる。これは県内で最も
減少が著しく全国的にも

渡辺則夫議員

上位である。町長は、林
業に命運をかけると言っ
て一連の投資をしてきた
が、林業の町として有名
な橋原町は、移住・定住
に力を入れ26年度の人口
減が1人だけだった。本



立川地区文化交流会

町も、もっと力を入れる
べきではないか。

度が速くなったと受け止
めた。80歳代前後の人口
が多く、今後も高い減少
率で減少すると考える
が、地域の資源、環境を
生かすという視点に立つ
て、積極人口を維持し続
ける町を目指す。

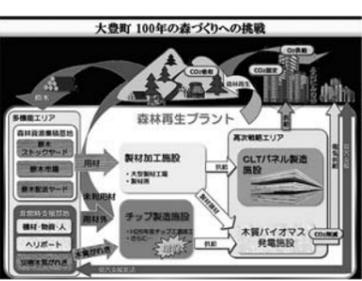
岩崎憲郎町長

国勢調査が開始されて
以来、初めて全国人口が
減少する中、本町では16
%減少しており、減少速

問 100年の森づくりを聞く

答 地域の資源を生かす取り組み

と一定検討する場を作る
予定である。課題はある
が取り組まなければいけ
ない。具体的な提案もい
ただき、知恵を絞って、
山元に動きを届けるよう
に取り組んでいく。地域
の資源を生かす産業で雇
用を生むということが必
要だと考えている。



岩崎憲郎町長
団地化等により、生産
コストを下げるなど、工
夫をしながら改善の取り
組みをさらに充実させる
べく、素材生産業者の方

問 山村農業実践センターの活用方法は

答 将来の定住就農に向け取り組む

は有機農業をメインに募
集する方が、人が集まる
のではないかと。管
理委託をするということ
は分かったが、内容につ
いては語られていない。
どのようなものにするの
か、本町のような夏が比
較的涼しく地形の險しい
経営規模の小さい農業で

岩崎憲郎町長

県、高知大学などと連
携のもと、山村で農業を
目指す人の研修、農の営
みを核とする交流拠点と
して運営する。



山村農業実践センター

問 高齢者の住宅施設が必要ではないか

答 住み慣れた所で暮らすことをサポート

生活に不安を持つ高齢者
が、寒さの厳しい大豊で

問 旧大田口小学校に予定の集合住宅の運営は

答 民間へ委託



都築正光 議員

旧大田口小学校の利用
について、集合住宅に改
装予定だが、どういう形
態で運営をしていくの
か。

岩崎憲郎町長
単身用と夫婦の世帯、
家族世帯で、10世帯が入



旧大田口小学校

は冬になると寝て過です
ることが多くなり、この間
に体力の低下はもろろん
のこと生活リズムを崩
し、認知症へとつながり
やすい。暖かいスペース
で生活リズムを崩さず過
ごせる住宅施設が必要で
はないか。

岩崎憲郎町長

住み慣れた所で暮らす
ことをサポートしていく

居できる集合住宅、それ
と同時に、「コミュニティ

岩崎憲郎町長
「養護・特別
養護老人ホー
ム大豊園」の
今後について
は、嶺北広域
行政事務組合
や各関係町村



養護・特別養護老人ホーム大豊園

問 今後大豊園を取得して、利活用を含めた検討せよ

答 嶺北広域行政事務組合と協議

平成28年度末をもって
廃園となる現在の「養護・
特別養護老人ホーム大豊
園」の建物等
施設は、町と
して払い下げ
を受け、取得
し、民間に
使っていただ
くような利活
用を含めた検
討をしている
か。

この部分として、NPOの
活動する場所、また、放
課後子ども教室を計画し
ている。住宅の部分の運

営については、民間に委
託する方向で検討してい
る。